**天安河原**

川は作物の生命の源であり、輸送手段にもなり、すべての生命の神聖さを思い起こさせます。高千穂峡を下りながら五ヶ瀬川の支流に続く急な登山道をゆっくりと下降し、岩壁の間に涼しく、天照大神を取り巻く伝説の場所で有名な領域に深く入り込みます。小道に沿って、天安神の川沿いの洞窟への特別な巡礼で残された石を積み上げた塚があります。石はしばしば祈りの形として組み立てられるので、邪魔をしてはいけません。別の地元の伝説によると、これは天照大神が日本の皇室を確立するために孫の瓊瓊杵尊を送った場所です。洞窟の周囲には紛れもないオーラがあります。神聖な会議に最適な川沿いのエリアを含む洞窟の暗い聖域には、約40メートルの深さがあり、古事記の8世紀の記録よりもずっと前から神や女神の存在を簡単に想像できます。日本書紀は、天岩戸神話について書いています。過去には、小さな神社が洞窟の中にあり、道はありませんでしたが、現在、神聖な小道の終わりにあるこの大きな神社には、この川底の場所に神聖さと精神的な神秘の感覚を加える鳥居があります。